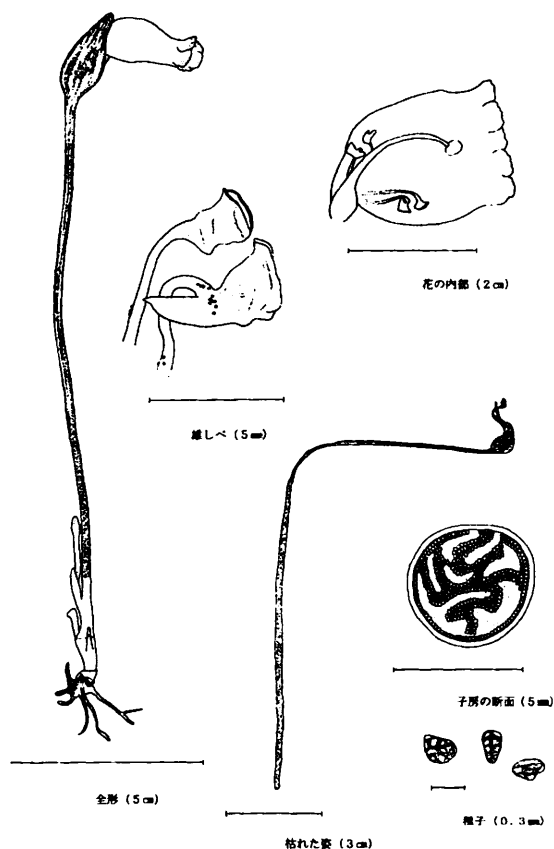


協議会ニュース 144号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2014. 8



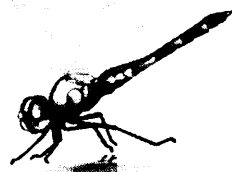
ナンバンギセル 岡田 慶範 (西三河支部)

【募集】フォローアップ研修会	2
協議会交流の日のご案内	3
【報告】外来種・移入種の研修会	尾張支部 久米 未祐	…4、5
福井・夜叉ヶ池周辺を訪ねて	知多支部 牧野 靖子6
春の磯遊びをしよう	東三河支部 天野 保幸7
ふるさと親子自然観察会	名古屋支部 石樽 純子8
自然観察のヒント「バッタは跳ねる…」	名古屋支部 山田 千宏9
私の活動紹介	名古屋支部 久村三重子10
理事会報告 (平成 26 年第 2 回)	11
行事案内/編集部から	12

第 158 回 NACS-J 自然観察指導員フォローアップ研修会・愛知県

「トンボをテーマに生物多様性を伝える観察会をしよう！」

愛知県と公益財団法人日本自然保護協会が主催し、
当協議会が後援する「第 158 回 NACS-J 自然観察指導
員フォローアップ研修」、今回はトンボがテーマです。
詳細は、同封のちらしをご覧ください。



自然観察会のフィールドとして、小川や田んぼ、公園の池やため池など、水辺を使う機会は多いと思います。そこに生息する生きもの「トンボ」の観察や記録をすることによって、その環境の状態や成り立ち、変化を知ることができます。

自然観察会で「トンボ」をはじめとする生きものから生物多様性について伝える方法、視点や手法を学び実践して、地域の生物保全活動へつなげていきましょう。

※期間中、日本自然保護協会の「自然しらべ」でも全国各地から「赤とんぼ」の情報募っています。

実施日	2014 年 9 月 6 日 (土) ～ 9 月 7 日 (日) 雨天実施
会 場 (現地集合・解散)	庄内緑地グリーンプラザ TEL:052-503-1010 〒452-0818 名古屋市西区山田町大字上小田井字敷地 3527
受 講 料	2,500 円 (保険料含) テキスト代は別途必要※ (※テキスト: 図鑑『日本の昆虫 1400』②』(文一総合出版) 1,296 円(税込))
定 員	30 名 (先着順)
参加対象	NACS-J 自然観察指導員又は満 18 歳以上で、自然観察手法を学びたい方で、2 日間とも参加できる方
申し込み期間	2014 年 7 月 10 日 (木) ～ 8 月 31 日 (日)
申し込み方法	ちらし (今号の協議会ニュースに同封) の申込書を郵送、FAX 又は E メールでお送りください。
申し込み先	公益財団法人日本自然保護協会 教育普及部 担当: 萩原 〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2 F TEL: 03-3553-4105 FAX: 03-3553-0139 E-mail: hagiwara@nacsj.or.jp

「協議会 交流の日」のご案内

日時：11月24日（月、休） 10:00～15:00

場所：大高緑地（名古屋市緑区大高町字高山1-1）

集合場所：大高緑地管理事務所前 10:00

●車で直接参加の方：No. 3 駐車場（管理事務所に近い）に駐車
（なるべく乗りあわせておいでください。）

●JR東海道線利用の方：「南大高駅」下車、改札口前 9:30 集合
《プログラム》

○大高緑地の自然観察 10:15～11:45

テーマ「秋の雑木林」

○昼食休憩 12:00～13:00 ディキャンプ場にて

・温かい汁物を用意します。

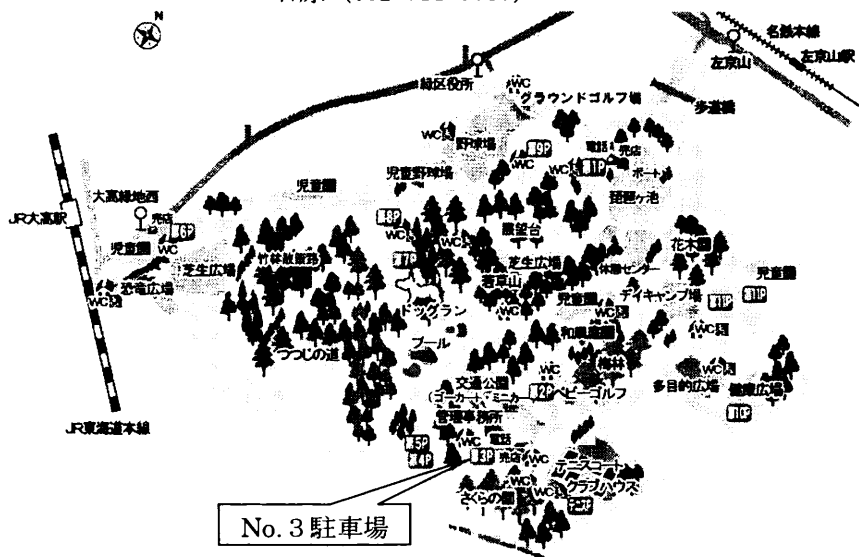
・おにぎりなどの軽食とお碗などの器と箸をご持参ください。

○交流会 13:30～15:00 管理事務所交通教室

いくつかの分科会に分かれての交流会。

問い合わせ：名古屋支部 滝田（052-782-2663）

石原（052-711-3087）



《大高緑地の概要》

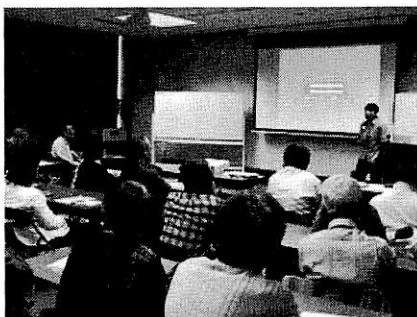
愛知県営の緑地公園として1963年4月に開園され、昨年、設立50周年を迎えた。敷地内には、交通公園、プール、ベビーゴルフ場、野球場などのスポーツ施設やディキャンプ場などがあり、休みの日には多くの家族連れで賑わっている。また、公園内には雑木林や竹林、湿地などの水辺、花木園などが点在し、四季折々の自然の変化を楽しむことができる。そして、これらの自然を守るために、自然観察会や森づくり活動などを行う各種団体がさまざまな活動を行っている。

外来種・移入種の研修会 報告

レポート：尾張支部 久米 未祐

平成 26 年 4 月 29 日（火・祝）、講師に名古屋工業大学准教授の増田理子先生と、「ビオトープネットワーク中部」副会長の宇野総一先生をお迎えして、外来種・移入種の研修会を開催しました。その一部をご紹介します。

1. 外来植物について（増田理子先生）



▲講演の様子

（1）外来種とは？

外来植物とは、本来の自生地から人間の媒介によってほかの地域に移動し、その地で生存・繁殖することができるようになった植物のことです。

日本は島国のため、外来植物がいつ渡来したのかよくわかります。古事記や万葉集、浮世絵や本草図譜にも大量の植物が記載され、日本人の植物への愛の深さがわかります。漢字が渡来した 4 世紀以降約 1600 年の間に持ち込まれ野生化したものは帰化植物、江戸時代末期以降第二次世界大戦の間に帰化したものは新帰化植物 1、それ以降に帰化したものは外来植物と分類されます。

現在、外来植物は 1200 種類以上（日本の植物 4000 種の 1/4 以上）あると言われています。開発により侵入種が多くなるため都市部に多く見られますが、山岳部（富士山や乗鞍岳など）でも増えつつあります。



▲増田理子先生

（2）外来種によるさまざまな問題

多くの外来植物が大繁殖して農業に大きな被害をもたらしています。イチビやハキダメギクは畑の養分を吸収し、オオオナモミは土壌水分を多量に横取りします。

また、湿地を草地に変えてしまうほど大繁殖するものもあります。スパルティナ・アルテニフロラもその一つで、愛知県豊橋市と熊本県で確認されましたが、豊橋市では駆除によりほぼ制圧できました。

絶滅危惧種のセキショウモによく似た植物が急に増えたと思ったら実は外来種だったという報告もあります。この外来のセキショウモは原産地が不明で学名が付けられず論文が書けないため、この問題を広めたくてもできない状態にあります。

土木分野では、法面緑化や道路・河川敷の緑化に見栄えのよい外来植物が用いられてきました。最近ではヨモギで緑化する例もありますが、日本産は高いため、朝鮮半島産の安い種子が使われる事が多いです。また在来種でも、遺伝的多様性を保つためには、その地方でとれたものを使うべきです。

（3）外来種の除去

外来種を除去するのは非常に難しいことです。病原体を使う微生物殺虫剤で駆除できた例もあります。

2. 外来昆虫について（宇野総一先生）



▲宇野総一先生

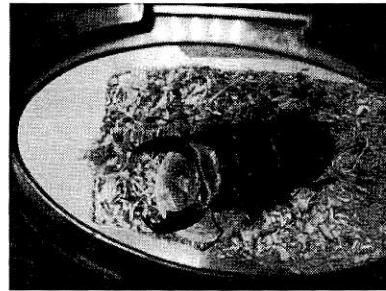
外来昆虫のニュースは日本だけでなく海外でも話題になっています。一方、人気の高いクワガタムシやカブトムシは店頭でよく目にするようになりました。実際に把握できているだけでも、輸入量は増加しています。

昆虫の輸出入などを規制する法律として植物防疫法があります。これは、安全に農業生産できるよう、輸出入や国内移動の際に植物を検査し、植物に有害な動植物を駆除したり、蔓延防止のために規制したりするものですが、1999年に規制が緩和されました。以前は学術論文で安全性が証明されなければ輸入できませんでしたが、今ではほとんど認められるようになりました。

国際自然保護連合（IUCN）の種の保存委員会が、外来種の中で特に生態系や人間活動への影響が大きい生物として定めた「世界の侵略的外来種ワースト100」には、日本のイエシロアリも入っています。また、日本生態学会が定めた「日本の侵略的外来種ワースト100」では、動植物計100種のうち22種を昆虫が占めています。「日本に定着している外来生物（昆虫類）のリスト（暫定版）」は原則明治以降に導入・定着した生物が掲載されていますが、アメリカシロヒトリやアルゼンチンアリとともに、ヘラクレスオオカブトやコーカサスオオカブトムシも入っています。

外来生物法による規制の対象とはなりません。生態系に悪影響を及ぼしうるもので、被害に係る知見が不足し引き続き情報の集積に努める「要注意外来生物リスト」に、クワガタムシ科も挙げられています。また、愛知県の移入動植物を紹介する「ブルーデータブックあいち2012」にもクワガタムシ科が載っています。

ペット甲虫として輸入されたものの多くは熱帯産ですが、標高が高い場所に生息するものなどは日本の気候にも合い、定着する可能性があります。また、寄生性のダニも一緒に侵入することが懸念されています。



▲先生が持参した
ヒラタクワガタの仲間

外国からきた昆虫だけでなく、オオムラサキやハラアコブカミキリなどのように、国内で移動する昆虫も問題となっています。

・ ・ ・ ・ ・

増田理子先生、宇野総一先生ともに、身近な例を挙げながらとてもわかりやすくお話しいただき、非常に参考になりました。

増田先生の講演後は、会場から日々の活動で感じた外来植物の疑問などについて熱心に質問する会員の姿が見られました。

宇野先生の講演では、クワガタの仲間をはじめとした珍しい昆虫を、間近で見せていただくことができました。

福井・夜叉ヶ池周辺を訪ねて

知多支部 牧野 靖子

日 時：6月7日（土）～8日（日）
場 所：福井県南越前町 夜叉ヶ池ほか
天 気：曇り
参加者：14名

梅雨入りして間もない、天候が不安定ななか、毎年恒例の研修旅行は、福井県南越前町にある夜叉ヶ池へのトレッキングをメインに実施しました。

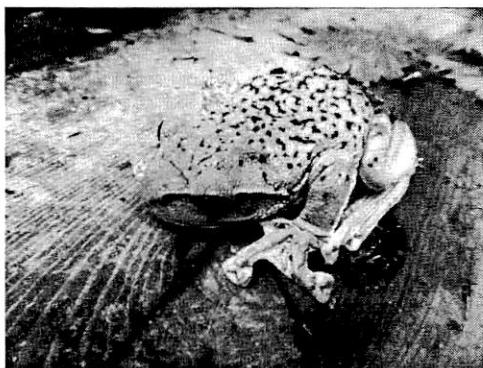
天気を気にしながら、登山口に到着。駐車場脇にある巨大なカツラの木が出迎えてくれました。登山口鳥居の脇にある灯籠の中ではキセキレイが抱卵中。そっと覗かせていただきました。緑豊かな登山道を出発し、夜叉滝、ブナ林やカツラ、トチノキなどの巨木、ヤマボウシやコアジサイの花を目にしながら結構ハードな山道を登ること約3時間（かなり個人差あり）、標高1099mにある夜叉が池に到着です。



▲夜叉ヶ池

夜叉ヶ池でまず感激したのが、その景観の美しさ。そして、多数のモリアオガエルと枝から下がった卵塊、彼らの声。ここできなければ味わえない感動です。池の中には、生まれ出るオタマジャクシを狙ってアカハライモりもたくさんいました。期待して

いた夜叉ヶ池の固有種ヤシャゲンゴロウも普通に出会うことができました。



▲モリアオガエル

夜は、宿泊した南越前町にあるバンガローでナイトハイク。ゲンジボタル（1頭のみ）、蛍光灯に集まる卵を持ったカゲロウ、クロスジヘビトンボ、カワゲラ等の虫たちを観察しました。

2日目は、福井県自然観察指導員の北川氏のガイドで福井県自然保護センターの観察会に参加しました。テーマは「シソバナ タツナミソウの観察」でしたが、それ以外にもササユリ、キンラン、たいそう立派なナルコユリ等の花を見ることができました。また、ムササビの葉の食み痕、シカ、イノシシ、クマの樹皮の剥ぎ方の違い、希少植物の保護・管理、観察中のエピソードなど興味深いお話を伺うことができました。

その後、同じ六呂師高原にある池ヶ原湿原に向かいました。木道脇にはトキソウの花が見ごろを迎え、わずかですがレンゲツツジの花もありました。ここでもモリアオガエルと卵塊を発見。巨大なトビケラ、ムラサキトビケラにも遭遇しました。

今回も驚きや発見に満ちた楽しい研修旅行となりました。

春の磯遊びをしよう

東三河支部 天野 保幸

開催日 ；平成 26 年 5 月 17 日（土）

開催場所；伊良湖岬

1) 参加者

東三河支部会員 8 名 他支部 2 名
その他 3 名（内子ども 2 名）

2) 海浜植物を求めて

潮が引いて磯遊びができるまで、岬を 1 周して海浜植物を観察した。

ハマヒルガオ・ハマエンドウ・ハマニガナ・ハマゼリ・ハマボス・ハマウド・ハマダイコン・ハマボウフウ・ハギクソウなどの花を見ることができた。古山の道路脇ではコバノタツナミソウが赤紫色の花を咲かせていた。

3) 磯の生き物をもとめて

海浜植物の観察後、磯に出て観察開始。まずワカメの芽株とアメフラシが目につく。この時期はちょうどアメフラシの産卵期なのでたくさんの個体が浅瀬に来ている。ラーメンの麺のような紐状の卵塊もたくさん見られる。

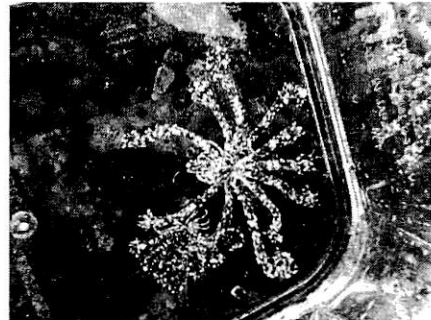
磯で採集されたり、目視されたりした主な生物を以下に示す。

アイナメの幼魚・イソギンポ・カジカ類の幼魚・種不明の幼魚・イワガニ・クロフジツボ・オオイワフジツボ・カメノテ・マツバガイ・ヨメガカサ・ベッコウザラ・イボニシ・クボガイ・イシダタミガイ・クロシタナシウミウシ・イイダコ・マダコ・イタボヤ類・マナマコ・クモヒトデ類・ウミシダ類・イトマキヒトデ・ムラサキウニなどの動物類

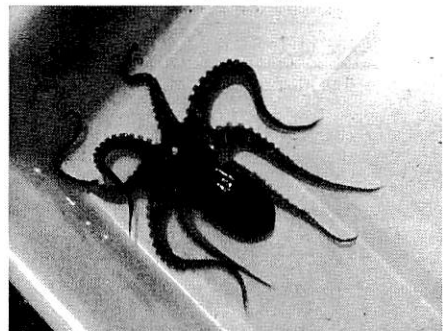
ワカメ・ヒジキ・オニアマノリ・オオムカデノリ・ピリヒバ・イシゲ・ツルツル・ミル・ヒラミル・フクロノリ・ウチワノリ・イバラノリなどの海藻類や海草類のエビアマモなど。



コバノタツナミソウ



ウミシダ類



イイダコ

ふるさと親子自然観察会

名古屋支部 石樽純子

日時：2014 年 5 月 6 日（火・祝） 9：30～12：00

場所：小幡緑地（名古屋市守山区）

参加者：一般 31 名、名古屋支部 8 名、尾張支部 3 名、愛知守山自然の会 3 名 計 45 名

【生き物調査】★印は外来種

白沢川： 魚類…トウヨシノボリ、★ブルーギル、★カダヤシ

甲殻類…スジエビ、ヌマエビ、テナガエビ、アメリカザリガニ

両生類…★ウシガエルのおたまじゃくし

貝類…カワニナ

水生昆虫…ハグロトンボ、コオニヤンマ、コシアキトンボ（いずれもヤゴ）

水草…★フサジュンサイ

竜巻池： 魚類…トウヨシノボリ、★ブルーギル

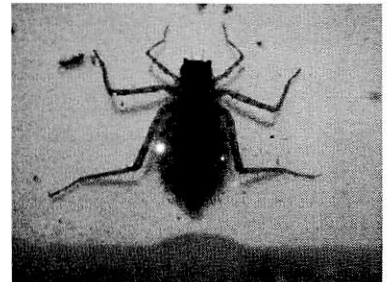
甲殻類…★アメリカザリガニ

貝類…ヌマガイ

水生昆虫…オオヤマトンボのヤゴ

ヒメゲンゴロウ、アメンボの仲間

湿地の中：トウカイコモウセンゴケ、★イトバモウセンゴケ



▲コオニヤンマのヤゴ

【水質調査】

	COD	PH	アンモニア	リン・鉄
せせらぎ湿地	0.0	6.2	0.2	0.0 mg/l
竜巻池	8.0 以上	6.2	0.5	0.0 mg/l
白沢川	8.0 以上	7.0	0.5	0.0 mg/l
ホタルの生息条件	0.5～3.4	6.5～8.3	0.03～0.12	

検証：ホタルの生息条件における水質的要因/化学的水質判定（白沢川の場合）

真夏の水温 28℃までは OK。COD は値が高すぎ。PH はクリア。アンモニアは値が高い

小幡緑地をホームフィールドとしている石原副支部長が講師となり、説明の後白沢川でガサガサを 1 時間ほどして生き物調査をしました。また、滝田支部長が簡易キットで水質を調べました。まとめの挨拶で石原副支部長は「これから 20 年は僕がやれるが、その後は君たちがこの自然を守ってください。」と、未来をつくる 2050 年の大人たちへの希望を語りました。



▲観察会の様子



自然観察のヒント

バッタは跳ねる・・・

名古屋支部 山田 千宏

以前、中学生相手の観察会で、「バッタを3匹、生きたまま連れてくること」という課題を出しました。さて・・・？

意図した通り、写真のような生き物が連れてこられました。これは、課題に照らし合わせるといかがですか？ 確かに跳ねます。緑色で・・・。トンボではないですよね？ バッタ・・・みたいです。今、読んでいるみなさん方からは、「いや、これはササキリかツユムシの仲間だよね。」という声が聞こえてきそうです。もちろん、その通りです。しかし、生徒達はこれを「バッタ」として連れてきます。「違います」、だけでよいでしょうか？



確認してみましょう。ひげが長いようですね？ 目はどうですか？ 少し小さめですね？ 写真ではよくわかりませんが、前脚のようすはどうでしょう？ トゲが少し多くありませんか？

バッタの仲間とキリギリスの仲間との違いは何でしょう。なぜ、ひげの長さが違うのでしょうか？ 目の大きさは？ トゲは荒い虫とそうでない虫があって一概

には言えないのですが、キリギリスの前脚にはかなり大きなトゲが見られます。バッタにはないものです。(キリギリスの仲間でも、クツワムシやツユムシ類などではあまり目立ちません)

その答えは、たとえば、活動時間を考えてみるといくらか解決できないでしょうか。バッタは、夜は？ そして、キリギリスは？ 足のトゲは、食物について考えてみましょう。キリギリスの場合、飼育時は確かに植物性でもなんとか生きていますが、自然状態ではどうでしょう？ 同じバッタ目に含まれ、後肢が発達してよく跳ねる昆虫ですが(キリギリス類は「すごく跳ねる」というほどでもないのですが)、明らかな違いがあります。その違いというものは、生存し続けていく必要上適応させてきた結果でしょうか。あるいは、棲み分けかも知れません。

さて、とするならば、同じ目に属するコオロギの仲間はどうでしょう？ あるいは、チョウとガで比べるとどうでしょう。同じことが言えるのでしょうか。羽根＝翅のようす、たたみ方に注目した分類では、同じバッタ目(直翅目)にまとめられる昆虫ですが、さまざまな違いが見られます。さて最後に・・・、バッタは跳ねるだけでなく、羽根を広げて飛ぶことがありますね？ では、キリギリスの仲間はどうですか？ キリギリスは鳴きますね？ では、バッタの仲間でも鳴くのは？ その時使う部位は？ コオロギは飛びますか？ 羽根のたたみ方は・・・？

私の活動紹介



名古屋支部 久村三重子

1 指導員登録の動機

地元の観察会に参加するうちに指導員講習があることを聞いて受講しました。講習会で習ったことはとても楽しく、新しいこともたくさん知ることができました。指導員の仲間に入れていただいて、もっともっといろいろなことを体験したいと思いました。

2 活動の経緯

ちょっとしたきっかけから自然の不思議や自然の素晴らしさに気づいた時、知りたがり屋の私の好奇心がむくむくと頭をもたげてくるのを感じました。自然観察に興味を持った私は、時間があれば何にでも参加してみました。

その一つに「なごや環境塾」がありました。そこで学んだことから、環境サポーターとして保育園や幼稚園の子供たちに伝える活動があります。この活動では、植物・昆虫・人が関わり合って生きていることを、クイズや寸劇で伝えています。毎回バージョンアップを考えながらの活動で、今年でもう9年目になります。



▲寸劇「森のひみつ」保育園での活動

また、地元の観察会グループに所属し、区の散策会サポーターをしたり、小学校の総合学習グループメンバーとして、区内緑地での観察など、小学生が自然との関わりを学ぶお手伝いをしています。

もう一つ、森林整備ボランティア活動があります。月2回の活動ですが、観察会とは違った魅力があります。この活動も指導員になる少し前から続いています。汗を流して気分がスカッとしますよ。

3 とっておきの観察道具

とっておきではありませんが、私の必需品は、双眼鏡とデジカメです。

双眼鏡は貰い物ですが、小型で軽く使いやすいので愛用しています。少し離れた樹木を観察するには最適です。反対から覗いて虫めがねの代用(あまりしませんが)もできます。

4 その他 夢の観察会など

まだまだ知らないことばかりです。自分の知らなかったことを発見するともう嬉しくて！嬉しくて！観察会への興味は尽きません。

近頃、花の後の種子のでき方に関心があります。「花の後の観察会」「植物をとことん知る！」などいかがですか？

誰も来てくれないかもしれませんね。(笑)

平成 26 年度 第 2 回理事会 報告

日 時：平成 26 年 5 月 5 日（月・祝）13:30～16:30

場 所：名古屋市音楽プラザ

出席者：大谷、星野、石原、吉田、久米、永田、布目、浅井、滝田、三田、岩崎（代理）、
河江

◆ 3～4 月の活動報告

1. 総会・講演会

日時：3月21日（金・祝）13:30～ 場所：日本特殊陶業市民会館第1会議室

演題：「日本すみれ紀行」 講師：いがりまさし氏（写真家・豊橋市在住）

参加者数：総会出席者50名、記念講演65名（自然観察指導員54名、一般他11名）

2. 協議会ニュース第143号発行（5月）

平成25年度収支決算報告・平成26年度予算案の訂正版を同封

3. ESD あいち・なごやパートナーシップ事業に登録

チラシにロゴマーク使用（下記の行事）

あいちの観察会（5回）、外来種・移入種の事前研修会（4月29日）、
生物分類の研修会（10月13日）

4. 外来種・移入種の事前研修会（後援：日本自然保護協会）

日時：4月29日（火・祝）13:30～ 場所：日本特殊陶業市民会館第1会議室

講師：増田理子氏（植物担当・名工大准教授）

宇野総一氏（昆虫担当・ピオトープネットワーク中部副会長）

参加者数：講演59名（自然観察指導員52名、一般他7名）



議案 1 タケ調査 中間報告（調査担当 瀧崎氏・欠席）

調査結果のまとめ方を検討し、年内にまとめる予定。

議案 2 当面の日程

- ・ 5～6月に開催予定のあいちの自然観察会（名古屋支部）、各支部研修会（東三河支部、知多支部）の日程、集合場所について確認
- ・ フォローアップ研修会 日時：9月6日（土）、7日（日） 通い・雨天実施
場所：庄内緑地グリーンプラザ 講師：槐 真史（厚木市郷土資料館学芸員）
- ・ 協議会交流の日
日時：11月24日（月・祝） 場所：大高緑地の自然観察会 担当：名古屋支部担当
具体的な内容は第3回理事会（7/21）に提案予定

議案 3 各担当から

- （1）会計：会計の精算
- （2）編集：協議会ニュース8月初旬発行
- （4）HP：あいちの観察会・支部観察会の報告必ず送付のこと
- （5）保険：平成25年度県協議会保険対象観察会2,437名。集計結果報告

議案 4 支部から（その他）

- ・ 第10回矢作川森の健康診断（豊田市域）
自然観察サポーター、地元ガイドサポーター等 協力をお願い
- ・ 次回 第3回理事会 日時：7月21日（月・祝）13:30～ 西三河担当
（記録：石原）

おくやみ

協議会設立メンバーで、事務局を長らくお務めになり、自然観察会の発展に大きな貢献をされた佐藤國彦さんが、去る7月4日に永眠されました。享年72歳でした。

尚、葬儀はご家族で済まされたとのことです。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

***** 行 事 案 内 *****

秋も主要行事が目白押しです。フォローアップ研修会と協議会交流の日については、今号でもご紹介しています。生物分類研修会については、ちらしを同封する予定です。会員のみなさんのご参加をお待ちしております。([p.○]は今号での掲載ページ数です。)

●フォローアップ研修 (9月6日(土)～7日(日) 庄内緑地グリーンプラザ) [p. 2]

●生物分類研修会 (10月13日(月・祝) 日本特殊陶業市民会館第1会議室)

講 師：名古屋工業大学准教授 増田理子先生

テーマ：現場における植物の分類

●協議会交流の日 (11月24日(月・祝) 大高緑地) [p. 3]

***** 編 集 部 か ら *****

原稿の執筆、編集、校正など多くの方の協力で作られている協議会ニュース。会員のみなさんに、より身近に感じていただきたくて、今号から編集スタッフの紹介を兼ねた編集後記を復活させました。今回は、西三河支部の馬場隆之さんです。

No. 142号から担当しております西三河支部の馬場です。このようなことはあまり得意でなく、皆様に御迷惑を掛けると思いますがよろしく願いいたします。

植物と昆虫の採集と標本づくりを小学生ころやっていました。それから何十年のブランクを経て、今は観察と撮ることでキノコ、植物や動物と触れ合いたいと思っています。皆様の情熱と情報が私の教科書になっております。そして、多くの皆様により情報を展開できたらと思っています。

●お詫び (前号 (協議会ニュースNo. 143) の訂正) - - - - -
p. 9 : 奥三河支部総会報告の記事の最下段「会計監査：畠 烈、山本 辰巳」を削除
折込：最後から2行目 ×「障害保険」→ ○「傷害保険」

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」 編集部	久米未祐 TEL : 090-3302-1621 E-mail : ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会 (あいち自然観察会) 事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page : <http://naichi.net>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)